

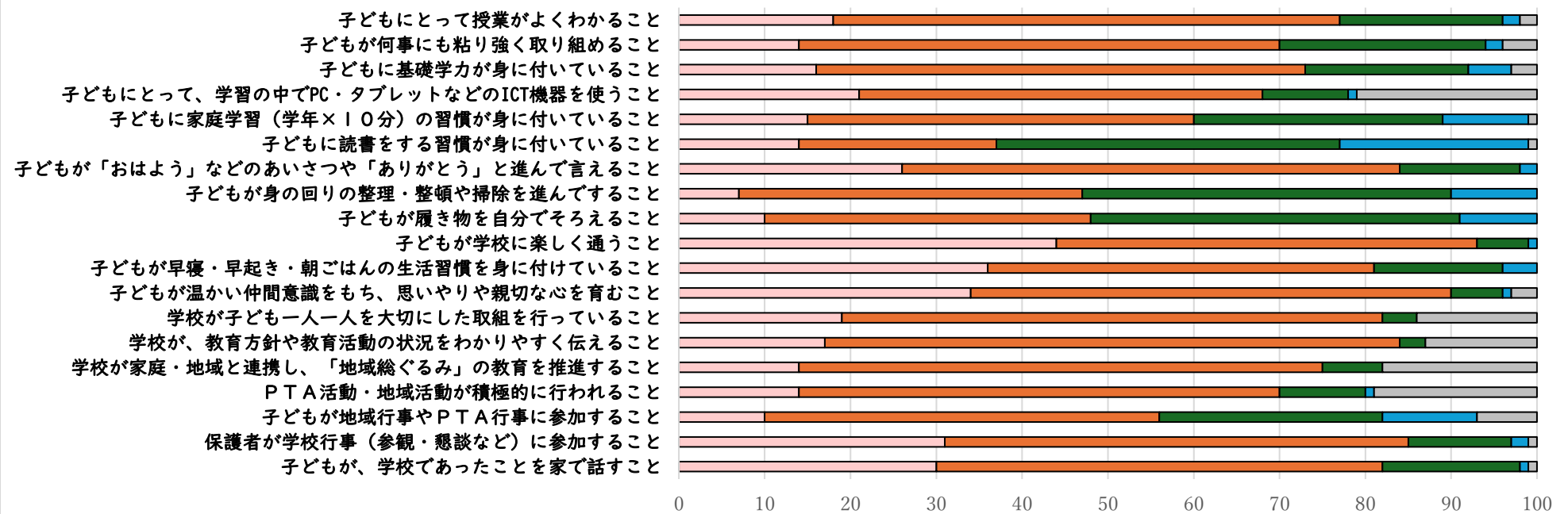
本校の教育活動をより充実させるため、今年度の学校生活などについて児童・保護者を対象にしたアンケートを実施しました。

お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

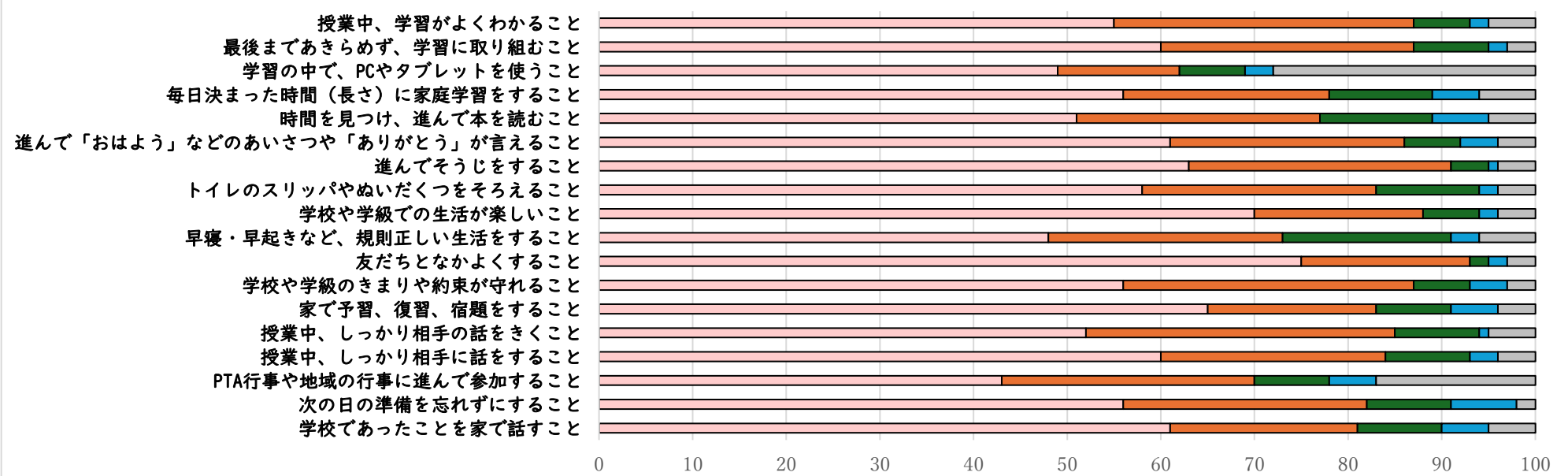
集計結果を今後の学校運営や教育活動に生かし、子どもたちの安全・安心な学校生活を送ること、学力向上への取組、家庭・地域の連携など、よりよい学校づくりに向けて取り組んでいきたいと思ひます。

□よくできている □大体できている □あまりできていない □できていない □わからない（数字は％）

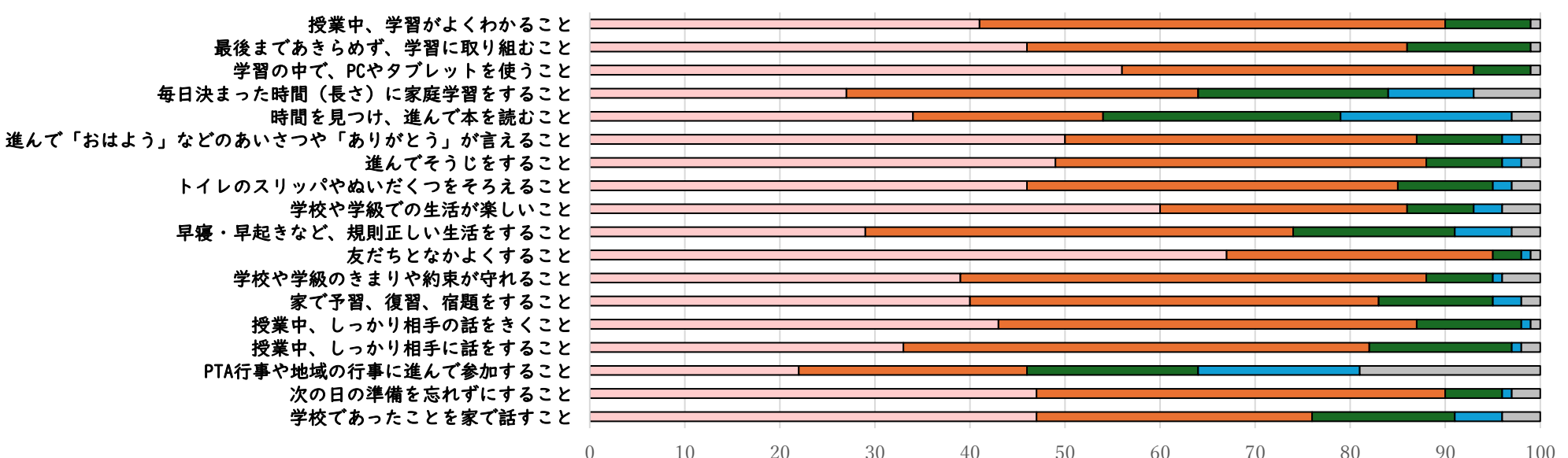
保護者



児童（低学年）



児童（高学年）



学校教育目標

育成を目指す資質・能力
3つの大切

「夢に向かって 自ら学び 共に行動する 梅津北の子」

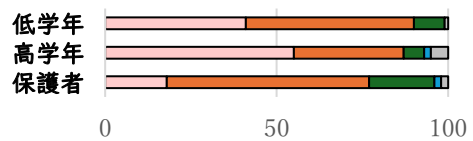
「思いを伝えあう力」「自己指導能力」

「ことばを大切に じかんを大切に いのちを大切に」

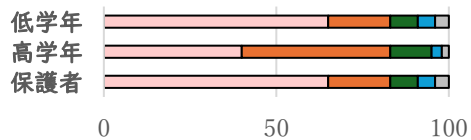
確かな学力の育成

- 「授業が分かる」は肯定的な回答が80%を超えており、「最後まであきらめずに学習に取り組むこと」も含め、授業に対し前向きな姿勢で取り組む児童が増えてきています。
- 家庭学習や読書の習慣化においては、高学年になるにつればらつきがみられました。

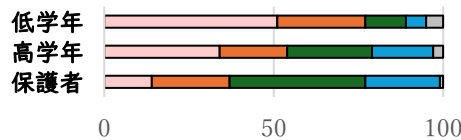
授業中、学習が分かる



家庭学習の習慣



読書



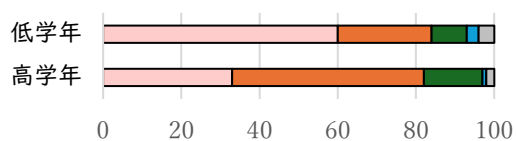
今後も以下のように子どもたちの学びを支える取組を行っていきます。

- 子どもたちが「やりたい」「学びたい」と思う学習展開の工夫
- 対話的な学びを通じた思考力・表現力の育成
- ふり返りによる自分の学びの確認
- 家庭学習との連携による学習習慣の確立

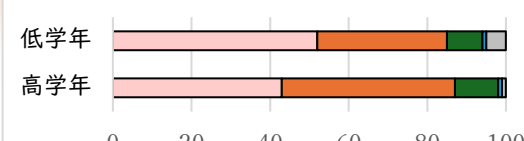
「思いを伝えあう力」の育成

- 授業中に質問や発言をする機会が増え、大事なことを落とさずに聞くなどを意識して聞いたり、分かりやすく伝えられるよう話したりする姿が見られます。
- 話し合いの中で「楽しい」と感じている児童も増え、自分の思いや考えを伝えることで学びが広がったり、深まったりするを感じています。

話すこと



聞くこと



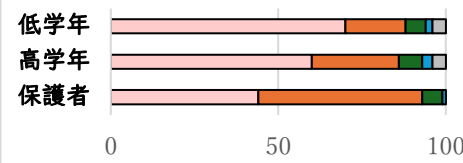
「思いを伝えあう力」の育成においては、共感的で安心して学びに向かう授業や日常的な言語活動を通じて、子どもたちが自分の思いや考えを表現し、それらを共有する喜びを感じられるようにしていきたいです。

□よくできている □大体できている □あまりできていない □できていない □わからない (数字は%)

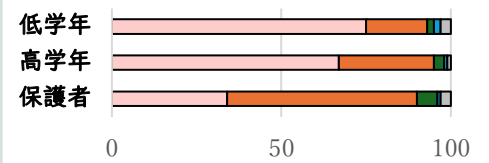
豊かな心の育成・健やかな体の育成

- 「学校が楽しい」「友だちと仲良くする」という項目では肯定的な回答が多く、日々の学校生活の中で、授業や友だちとの関わり、様々な取組や行事を通して充実感や安心感を得ている様子が見られます。

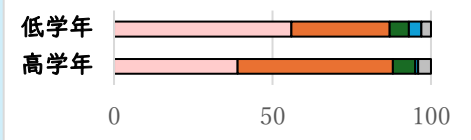
学校が楽しい



友だちと仲良くする



きまりを守る



- 「きまりを守る」項目では80%以上が守れていると肯定的な回答がありますが、
 - 何のためにきまりがあるのか
 - なぜきまりを守らなければいけないのか
 - 自分のためにも、人のためにもなっているのかということも子どもたちに伝えていきたいと思っています。

今後も一人一人が安心して過ごせる環境づくりを大切に、友だちや先生との関わりの中で心も体も健やかに育つように日々の教育活動を丁寧に積み重ねていきます。

「自己指導能力」の育成

子どもたちが「その時、その場でどのような行動が適切であるか自分で考えて、決めて実行できる」ようになるためには、自分は大切な存在なのだと感じ、他者との共感的な人間関係が築かれる中で、自己決定する経験をしていくことが大切です。

子どもたちは、学習や学校生活の場面で「どうすればうまくできるかな」と考え、「これをがんばろう!」と目標を立て、「次はこうしよう!」とふり返りを積み重ねています。

また、「たてわり活動」や「ピア・ウメキタ」の取組では異学年の子どもたちが共に活動を楽しみながら楽しく過ごしています。それらの活動の中で相手の気持ちを考え、行動している姿が多く見られます。

これからも日々の学習や取組を通して互いのよさを認め合いながら子どもたちが健やかに成長できるよう支えていきたいと思っています。



学校運営協議会理事の方より



- ・低学年と高学年で分けて調査することで、意識の違いが見えてきた。保護者の皆さんにも今回のアンケート結果を見て、自分の家と比べてどうかを見直すきっかけになってくれたらよい。
- ・「学校や学級での生活が楽しい」の項目では概ねの児童が「楽しい」と回答しているが、「楽しくない」と回答している児童へのアプローチを考えていかなければならない。
- ・2学期は地域行事も増えるので、習い事や塾等で忙しい状況かもしれないが、行事に参加し地域のことを知ったり、つながったりする機会になるとよい。
- ・読書の習慣については、学校でも家庭でも本を読んだあとに感想を述べあう時間を設けたり、本を読みたくなるような雰囲気を作ったりすることも大事だと思う。
- ・「学校であったことを家で話す」の高学年、保護者のアンケート結果から、時間の許す限り学校や家庭でも子ども達の話聞くことを大切にしていきたい。